

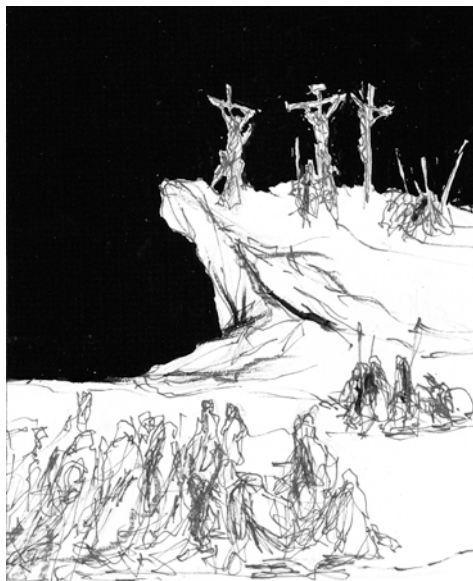


いかにずちの子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512



<http://www.machida-catholic.jp/>



またそこには、多くの婦人たちがいて、
離れた所から見守っていた。
彼女たちはガリラヤからイエズスに従っ
てきて、イエズスに仕えた人たちである。
マタイ 27-55

じゃりん子チエ

主任司祭 アシジの聖フランシスコ 田中 隆弘

わたしが司祭叙階後、新司祭として町田教会に赴任しました。赴任して主任神父の酒井師から教会学校の責任者として任命されたのですが、その教会学校のリーダーの一人の先生が天使幼稚園の先生で、その幼稚園の近くで迷いネコの子ネコを保護し、飼い主が見つからなかったので、主任神父さんに相談し、最終的に教会で飼うことになり、主任神父さんは漫画「じゃりん子

チエ」(はるき悦巳作)から「チエ」と名づけました。そんなチエは教会学校の時はサブリーダーとして、また子どもたちのアイドルとして活躍してくれましたが、わたしたちはそんな時に「猫の手も借りる」と言っていました。しかし、ネコはネコです。日ごろは教会の中を自由気ままに過ごしていました。でも、自由気ままといっても、教会内で二ヶ所だけ自由にならな

い所がありました。それは一つは「聖堂」で、もう一つは「司祭館食堂のテーブルの上」でした。

主任神父さんは何とかこの二ヶ所について躑けようと子ネコのころからやっています。だが、なかなかうまくいかなかった。たびたび「入ってはいけない!」のつてはいけない!」と説教していました。でも、わたしは家でネコを飼っていたものですから、イヌとは違って、ネコというものはそうはいかないのだから「無理ではないかなあ」と思い眺めていました。

たとえが適当であったかわかりませんがイエズスの弟子に対する態度。つまり師であるイエズスを最後にうらぎった弟子たちに、わたしなら、うらぎった人に対してそんな態度はとてとれないと思われれるのですが、イエズスは「あなたがたに平和」とまず呼びかけます。

イエズスにそれがなんなく言えるのは、ただイエズスが偉かったから、神の子キリストだったからというのではなく、わたしは人間というものはこういうものだという理解の差ではないかと思うのです。ネコは自由気ままで、テーブルの上ののつてしまう...:と

そして、そんな「人間の限界」をまるごと受けとめ、そのような人を「神の子」(神のじゃりん子)と言っている

財務委員長のおつばやき

運営委員 田澤 三郎

三年以上続いたコロナ禍は世界中に暗い影を残しました。町田教会もその例外ではありません。行動制限は普段の教会活動を休止せざるを得ないこととなり、日曜日のミサができない時期がありました。そのような事態の中でも皆様からの月定献金は継続されており、コロナ禍による減少は大きくはありませんでした。昨年五月に二類から五類へ移行後、教会での行動制限はほとんどなくなりました。そこから今に至るまで、ミサに

のであろうと思います。そんなイエズスの理解をわたしたちも自分たちのものに共にできれば、と思います。

に近づいているように見られます。財務担当の立場から財政的には普通に元気だと思えます。ただ五年先十年先の未来がどうなっているかわかりません。町田教会に来るようになって四十年弱になります。その間にあった大きな出来事としては、聖堂及び司祭館の建替えがあり今の教会が出来たことです。建替え費用については、一部ドイツのケルン教会などからの応援がありました。費用のほとんどは町田教会の在籍信者の献金で賄われました。中でも、今は亡き先輩方に負うところが大きかったと思われま。金銭面だけでなく、建替え工事に関連して必要な問題解決とか事務作業に携わった方もおられました。関係者の殆どの方々は今はいません。これらの先輩方からの遺産を丁寧に守っていくということは残った者の責任だと思えます。今の教会の献堂式は二〇〇一年九月十五日でした。建設費の一部は教区からの借金でした。その後毎年返済が続き、終わっ

たのが二〇二〇年です。現在借金はありません。新聖堂は旧聖堂に比べ広くなりましたが、それまで以上に来場者が増えて溢れかえるようになりました。それがコロナ後は定員割れが続いています。

これからも、教会は信者の方々に支えられ、私たちは教会に育てられ大きく成長できる機会を与え続けると思いますが、財務委員会は、各担当者が担当別に決められた事務手続きを通して、財務面で静かに教会を支えています。

受付当番十五年

水野 雄一

受付には一大事が起きる。

カトリックとは何かと真摯な求道者たちが、神父様ご不在時に出現する場面である。熱意から溢れる質問の嵐。対応の成否の重大さを思うと「庄」になった。とにかく神父様にお引き会わせする迄、最低限教会へ行って良かったとの思いで帰って戴かなくてはならない。焦るのである。

その昔、「大丈夫。祈りながらやれば良いのです」と話してくださったマザー・ブリット。或いはアロイジオ・ミヘル神父様が信条とされた言葉「人間行為の真価は、その意向に在り」が思い出された。

対応の過程で相手方の人柄にキラリと凜質の光る瞬間がある。：：：そして天は時に、大きな果実を下さった。その後、時を経ず入門講座から受洗。やがて運営委員長として活躍。今も福祉活動の先頭に立たれるT氏との邂逅などは天の御計らいとしか思えない。まれに薄待、傷心の人々もみえる。当番なら誰しも「これぞ注力のしどころ」と奮い立つだろう。

長らく「平日受付」は夕方までで週複数回だった。この長い時間の何百万分の一にも満たぬ出会いの一瞬をひたすら待つ。これが私にとっても受付の仕事となった。

受付は又、主日以外の教会の姿を当番の目に如実に映す場であった。神父様のご多忙ご献身は勿論、日常的に倦まぬ努力で展開する信徒の活動はどれも愛徳の輝きを放ち、天が予定、期待されたキリストの共同体の理想へ進んでいると思わせた。階下では視覚障がい者のために点字翻訳、音声テープ作成が黙々と進行している。聖堂では聖歌練習の歌声。寒波、熱波にも礼装で、葬儀ミサを盛り上げる聖歌隊の方々。出棺の最後まで歌いながら見送られる。その場の未信者の人々の心に灯す燈りの暖かさ。影響の大きさ

'24年「世界病者の日」教皇メッセージ

人が独りしているのはよくない

創造の初めにこう言われ、人類に対するご計画の意味を示された。(創世記2:18) 関係性をいやすことで、病者をいやす…
よいサマリア人(ルカ10:25-27) (ルポ池久)

世界中に蔓延した感染症(新型コロナ) もっとも恐ろしい社会の病い
Covid-19のパンデミック
孤独 戦争
看護師、医師 過重な仕事 弱者 高い代償を払わされる

恵まれた国でも 病い 個人主義の文化が作りだした結果!

スピードに ついていけない人は無視 成果 あげる
犠牲を 使い捨て 文化に!

慌ただしい生活の ペースを緩め、自分自身を見つめなおすよう、だれをも招くのだから

病者のなくさめである聖マリアの助けを願います
人間らしい関心と 司牧的配慮を!
教会の中心

を思わずにはいられなかった。だが以上はほんの一例で、多くの個人、グループの献身によって、教会がキリストのみ心を実現しているのである。さらに受付は好意に恵まれる場である。出入りする人々のねぎらいの表出に心は潤った。又話し相手となり文学、芸術、はては芸能、グルメまで愉しく時を埋めて下さった方に、今私は頭を下げている。これら多くの喜びの源は何だろうか。当番には長時間ご聖体の近くに身を置くことでの恩寵があったのであろう。

サンティヤゴ巡礼記③

白柳 弘幸

■アルベルゲ

巡礼路の街や村にはホテルもありますが、アルベルゲと呼ばれる巡礼者専用宿があります。個人経営の小さなものから市町村や教会、修道院運営の大規模なものまで様々です。そこでは到着順に部屋とベッドが指定されます。原則素泊まりで料金は五ユーロから十ユーロくらいで、中にはドネイティブ（自由献金）という所もあります。

二回目巡礼の時、妻はベラルーシから来られた女性に夕食の料理方法を聞いたことから親しくなりました。その方はベラルーシに接するチェル

ノブイリ原発事故の大変さを知っていたので、東日本大震災を知り大変心配だったと話されました。この女性とお別れする時、言葉が不十分だったけれど、気持ちを通じ合うことができて嬉しかったと言われたそうです。その思いは妻も同じでした。

アルベルゲではプライバシーが欠けるため疲れが取れずストレスがたまる方もいるようです。ただアルベルゲでの世界中から来られる巡礼者との交流を通して、巡礼の思い出が違ったものになるのではないかと思います。

■良きサマリア人と出会う

一回目の巡礼中、大雨に遭いました。予定していたスピリの街に着くと、アルベルゲが満員で泊まることができないう巡礼者が大勢雨宿りをしていました。旅慣れた方たちはタクシーを呼び、次々に車に乗り込んでいきます。私たちは勝手がわからず、近くにいた

韓国人の父娘連れの方とどうしたものかと周囲を見回していました。するとどこからともなく二人の中年韓国人男性巡礼者が現れました。

私たちに日本人かクリスチャンかなどと聞き、僕らもカトリックだなどと言いつつ、タクシーを手配している巡礼者を見つけ、相乗りできるタクシーを探し出してくれたのです。お陰で隣のパンプローナまで行き、アルベルゲに泊まることができました。

日本と韓国の間には植民地支配などの歴史問題を抱えています。そうしたことを知りつつ、二人の韓国人男性は

困っていた私たちを助けてくださったのです。数日後、巡礼路で再会した時は、お礼を繰り返して伝えました。進んで隣人となってくれた彼等の行動から「良きサマリア人」の話を思い出しました。

巡礼は終わっても多くの思い出を残してくれました。



ワンポイント聖書

温故知新

①

余生風 佐藤 正明

天地創造のヴィジョン

初回なので聖書の初めを一瞥しましょう。「初めに、神は天と地を創造された」。創世記冒頭の有名な一節ですが、「創造した」のヘブライ語 **צָבַר** (バラ) は、神様が宇宙万物を無から創造したことを断言しています。何と壮大な御業だったことでしょうか！現代宇宙論のビックバン説は宇宙が約138億年前大爆発で生まれたと言います。「初めに」とはそんな遙かな過去のものかも知れません。神様が6日で創造し、7日目に休んだという説話は、イスラエル民族が過7日のサイクルで生活していたから、万物の創造もそれで説明したと理解すればいいでしょう。

いずれにせよ、宇宙はもう現存し、人類

が前世紀に見出した遺伝子や素粒子も実はもう天地創造の時からあったのだと知ると、その深遠さに驚嘆させられます。だから私たちは神様を称え、畏敬の念もって感謝し、主日ミサの信仰宣言では「わたしは信じます」と創造主に信仰を表明するのです。

但し信仰宣言の主語は「私たちは」ではなく「私は」です。それは自覚していません。さらに、今の天地が永久不変ではないことも。新約聖書は新しい天地の出現を予告しています。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」(マルコ13:30)とある通り、今ある宇宙はいつかリセットされ、更新されると。それが天地創造の聖書ヴィジョンです。なぜ？なぜでしょう…。



巡礼路に設けられた道標「ノホン」。矢印を目印に進む。

図書紹介

2020年2月以降に登録された教会図書の抜粋です。
図書係 横塚 千枝子

新約聖書を美術で読む 秦剛平
 旧約聖書を美術で読む 秦剛平
 星言葉 晴佐久昌英
 太陽の歌アジジのフランシスコ 川上勝
 対話の達人 I、II 遠藤周作
 黙示録から現代を読み解く 英隆一朗
 はじめての聖書物語 ビジュアル版
 S. タグホルム A. ミルズ著
 E. ナルバエズ画 山崎正治訳
 すべてのいのちを守るため
 教皇フランシスコ訪日講話集
 教皇フランシスコ訪日公式記録集 中央協議会
 教皇使徒的勧告「キリストは生きている」
 教皇回勅「兄弟の皆さん」 教皇フランシスコ
 第2バチカン公会議を開いた教皇ヨハネ23世 青山玄
 霊操 イグナチオ・ロヨラ 川中仁訳・解説
 聖イグナチオの30日の霊操
 「祈りに親しみ、神の愛に生きるために」
 ホアン・カトレット著 ホセ・マリア・カトレット絵

図説 聖地イエルサレム 高橋正男・石黒健治
 愛への道 ―十字架の聖ヨハネの生涯と教え―
 カルメル修道会編 難波洋子
 信仰生活 ちょっと聞きたい! 米田彰男
 寅さんの神学 加藤美紀
 アンジェラスの鐘 ―希望への招き― 前田万葉枢機卿
 前田万葉句集(1) 前田万葉枢機卿
 イスラエル史 ジョン・ブライト著 新屋徳治訳
 聖書の世界 全3冊揃 イエスの歩いた道
 モーゼの歩いた道
 パウロの歩いた道
 ウォルフガング・E・パックス、モルシェ・パール
 ルマン(著)、三浦朱門・曾野綾子(共訳)
 神父さんが描いた読む漫画 イシドロ・リバス
 ぐうたら神父の山日記 伊藤淳
 秋田の聖母マリア現代の奇跡
 ―聖母像の涙とメッセージ― 安田貞治



インターナショナルグループのクリスマスパーティ (参加者は約50名)



ヨゼフ会新年会 (田中神父右側は同日行われた講演会講師の久保文彦氏)

信者動静

2023年10月～
2024年1月

(個人情報のため、削除しています)

土曜学校では23年12月9日に1泊のお泊り会を(写真右)、中学生は12月16日にクリスマス会をそれぞれ実施した。



クリスマスお泊まり会